



神戸 YWCA 保育園が大切にしていること

梅川 玲子 (神戸 YWCA 保育園 園長)

イエスは幼子を招き寄せて「神の国はこのような者たちのものである」と言われた。「子どもの存在そのものを受け入れなさい」と教えてくださった。だから、私たち保育園の職員は、子どもがどう考えるかを意識して、子どもを中心にいた日々を過ごしている。「そうなんだ。それで、あなたはどうしたいの？」子どもたちの行動の過程を見守ることを大切にしている姿勢は、2016年に開園した時からずっと変わらない。

0・1・2歳児にとって、みんなと同じ行動をすることや、させられることは、とても難しいことである。「今はこれがやりたい」「あと少ししたらみんなと一緒に〇〇してみようかな」と考えている一人ひとりの状況を把握し、先回りしすぎず、臨機応変に予定を変えていく。小規模であるからこそ家庭と同じ目線を持って子どもにあわせた対応をし、急かさず待つことができる。そのことは、0・1・2歳児の育ちにはとても重要なことだ。

また、保護者にとっても園は安心できる場所であり、ともに育つ場である。園と保護者が対等に話ができて、お互いのことも気にかけるという関係であるために、職員は関心を持って話を聴くことに努めている。最近では、日本語が母語ではない保護者には、研修で学んだ「やさしい日本語」で伝える努力をしている。

このような環境の中、子どもたちを保育園にかかわる全員で育てよう、という私たちの願いが浸透しつつある。コロナ禍によって、保護者は登降園時に保育室に入れなくなったのだが、「子どもたち全員の顔と名前をしっかりと覚えて声をかけたい」との声があがった。保護者も「やりたい」を声に出してくださる雰囲気があり、大人も子どもも、成長をともに喜べる関係が生まれている。毎日子育てしている人たちが、孤立することなく、悩みを分かち合える関係づくりも保育園が担うべき大切な役割だと考える。

2歳児の子どもが言葉でやり取りできるようになる頃、「Yちゃんがかみさまやるね」と、子どもたちが祈り始める。祈ることを自然に受け入れているので、毎年驚かされる。そして、同じところに家庭でも食前の祈りが始まるらしい。子どもたちは、自分が受け入れたことは素直にどこでも実践していく。目に見えない子どもの「根っこ」は、0歳から積み重ねて育てていくものなのだと実感している。

「いつも元気ももらってるよ」と声をかけてくださる地域の方やお父さん・お母さん、YWCA会館に出入りするみんなによって保育園が守られている。そのことに感謝し、子どもにも、保護者にも、また、働く職員にも「あなたが大切な人」と発信していきたい。そして、子どもが安心して遊びに夢中になっている姿を守り続ける保育園でありたい。

夏の楽しみは、水遊び。
みんな一緒になって遊びます。



雨が降ってなければ
毎日外遊び



神戸 YWCA 保育園はこんなところです

絵本大好き！0歳児も思わず
駆け寄ります。
「もう1回、もう1回」



自分で握ったおにぎりを
持って、遠くの公園まで
歩くこともあるよ。

協力して食事づくりにも挑戦。
皮むき、型抜き、盛り付けも
自分でできるよ！



親子で交流する会。お迎えのあと、
保育園がおうちになるよ。



ガレージセール！

9月17日(土)、神戸YWCAを近隣の方に知ってもらうため、ガレージセールを開催した。保育園支援のための子ども服や好評のおとな服、食器や小物などが並んだ。養蜂家の春井さんも駆けつけはちみつのお話をしてくださった。「大きいバザーはできへんもんね」と言いながら両手いっぱい買ってくださったご近所さんもあり、台風のせいか人出は少なかったものの、売り手と買い手の会話が弾んだ2時間だった。(梅川 玲子)



まごの手ヘルパー徒然記

Sさんは95歳。60代のときに夫を亡くし、一人で暮らしてきた。朝起きて着替え、雨戸を一部開けて日光を入れ、朝刊を取りに外に出て、朝食を準備する。昼・夕は配食弁当をとっているが、片づけは自分でやっている。今でもその習慣は変わらない。

ヘルパーがSさん宅を訪問するようになって10数年。当初のサービス内容は、掃除と簡単な調理だった。しかし、数年前からSさんが痩せて

きて筋力が低下し、歩き方が不安定になってきたため、通院の付き添いや洗濯干し、入浴介助をヘルパーが担うようになった。家族や近所の方も、買物やゴミ出しを支援してくれている。Sさんからは、「ヘルパーさんなしでは生きていけないわ」との言葉を頂いている。

しんどくなったとき、Sさんは「そろそろ施設に入所しないと生きてい



けないかな…」と考えるそう。しかし、年老いて目が悪いため、テレビを楽しめないし手仕事もできない。耳も悪いため、話の輪に入れない。もし施設に入所したら、家で細々とやってきた家事もなくなって、毎日ボーッと過ごすしかない。そう考えると、Sさんは、体調に不安があるけれども、できるだけ今の家で、自分のペースで生活したいと思うそう。

Sさんができる限り自分の力で暮らし続けられるよう、これからは寄り添っていきたい。

(まごの手職員・藤井 かえ子)

生活支援わいわい

「生活支援わいわい」では少しずつ利用者が増え、支援の内容も幅を広げています。定番の掃除、片付け、買い物代行に加えて、最近では、草木の伐採、障子張り、洋服の簡単お直し、区役所への書類提出代行などを承りました。スマホでの電話のかけ方・受け方練習も喜ばれました。

人は誰しも日々の暮らしの中で思いがけずヘルプが必要になることがあります。そんな時に声をかけてい



ただける存在になりたいと思います。多様な要望に応えるには、いろいろなサービスを提供できるメンバーが必要です。仲間になっていただけませんか。
(川辺 比呂子)

平和活動グループ

「平和活動グループ」は、グループになって2年目。コロナ禍においても、オンライン・ミーティングは続けています。

他団体とのつながりも大切にしています。「5・3憲法集会」に参加し、ウクライナを取材されたジャーナリストの金平茂紀さんの話を聞き、平和憲法の大切さを再認識しました。

参議院選挙前には、「おしゃべり会」で語り合った内容をメッセージにして護憲派の候補者に送り、数人の方から返事をいただきました。

憲法を活かす社会を求めて、今後も活動を続けていきます。
(平和活動グループ)

ジェンダーグループオンラインイベント

「生き方は自分で選ぶ～男の子・女の子のジェンダー意識の作られかた～」

8月27日、灘中・高等学校教諭の片田孫朝日さんを迎え、ZOOMで講演会を開催しました。参加者は38人。YWCA以外の方もたくさん参加されました。また、講師が男性で男性学を研究された経歴からか、いろいろな方に参加いただけました。

第1部の基調講演は、社会で作られてしまう「男らしさ」を問題視し、その気持ちを言葉で表現することの大切さや実践のしかた、男子中高校生の反応など、興味深い内容でした。

第2部のグループセッションでは6つに分かれ、感想や自身の経験などを話しました。その中には第1部の内容と沿うものもあり、女性だけでなく、様々な性別の人たちがジェ



ンダー問題と一緒に関わる大切さを感じました。

ジェンダー意識を高めていくことはYWCAの重要な役割だと講師から応援をいただきました。

参加者からは、ジェンダーグループの活動に興味を持ったとの声もあり、収穫の多い講演会でした。
(木村 文子)

ともに生きる

夏のセカンドハウス

福島原発事故から11年たちました。まだ、様々な困難にある福島の方々に環境を変えてリフレッシュしていただきたいと願い、明石のセカンドハウス終了後、神戸セカンドハウスの大家になりました。

コロナ禍で利用者さんのキャンセルが続く中、嬉しいことにこの夏に初めて1組の家族をお迎えすることができました。淡路島の海で遊び、甲子園球場では福島の聖光学院戦を観戦されたと聞きました。楽しんで元気で帰られる家族をお見送りしました。

これからも、福島の方々に寄り添い、つながり、ともに生きていきたいと思います。
(山本 容子)

さらに、子どもが生まれてからは分室の近くに住んでいたので、ちやいやあらんどに親子で参加していた。転居してからは関わりは少なくなっていたが、この2月から神戸YWCA保育園で保育士として働くことになった。YWCAとの関わりは長い。知らないことが多く、活動も多岐にわたること、それぞれの活動がとも大切な働きであることを少しずつ分かって始めてきた。同じ頃に名古屋YWCAの職員さんとも知り合いになり、全国のYWCAの活動や世界のYWCAの活動にも興味が出てきた。まだまだこれからだが、保育士としても、YWCAの活動にも関わっていきたく考えている。

(青木直子)



神戸YWCAを知ったのは学生時代だった。その頃、野宿者支援活動として「神戸の冬を支える会」に関わっていたため、神戸YWCAの夜回り活動や病院訪問にも参加させてもらった。そして、卒業後はYWCAでヘルパー2級の資格を取得した。

さらに、子どもが生まれてからは分室の近くに住んでいたので、ちやいやあらんどに親子で参加していた。転居してからは関わりは少なくなっていたが、この2月から神戸YWCA保育園で保育士として働くことになった。YWCAとの関わりは長い。知らないことが多く、活動も多岐にわたること、それぞれの活動がとも大切な働きであることを少しずつ分かって始めてきた。同じ頃に名古屋YWCAの職員さんとも知り合いになり、全国のYWCAの活動や世界のYWCAの活動にも興味が出てきた。まだまだこれからだが、保育士としても、YWCAの活動にも関わっていきたく考えている。

神戸YWCAへの おさそい

●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時～15時
利用についてはお近くのあんしんすこやかセンターにご相談ください。

●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
10月1日(土)、11月5日(土)
10時30分～15時
場所 日本基督教団神戸聖愛教会
参加費 800円(食事付)
要予約、詳細はお問い合わせください。

●木曜カフェ 会館

10月13日、27日、11月10日、24日
(第2・4木曜日)、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながらほっこりしませんか？(1ドリンク100円～)
*食料品の販売はありません。

●声の奉仕 会館

視覚障がい者のためのデジタル図書づくり
10月25日、11月22日(火)13～16時
(第4火曜日)
参加費 600円/月(YWCAの会員になることが必要。年会費12,000円)他に日赤団費1,000円/年
講師 酒井茂樹さん(元NHKアナウンサー)

2022年度 新組織進捗報告会

日時 11月12日(土) 14:00～16:00

場所 神戸YWCAチャペル

内容 ①2022年度の各委員会・各グループの活動共有
②ミッションや組織図、グループ活動のルール変更の提案・質疑応答

今後のスケジュール

*グループ活動規定の変更など、重要なお知らせがあります。各委員会・各グループから3人以上のご参加をお願いいたします。

会費納入のお願い

2022年度(2022年4月～2023年3月)の会費・会友費のお支払いをお願いいたします。
2021年度の会費が未納の方は、併せてお納めください。

*特別な事情により会費の支払いが困難な場合は、「会費減額制度」がありますので、事務局にご相談ください。

理事会。出席理事7人、監事2人。2022年度下半期および2023年度以降の財政管理計画について協議、承認した。日本YWCAへの資金借入要請を取下げること決議した。
(総幹事・西本玲子)

賛助員

宮田 輝雄 (敬称略)

訃報

佐治孝典さんが9月9日、94歳で逝去されました。会友・賛助員として、また長らく近現代史の講師として、平和活動や学院の教育に貢献してくださいました。

編集後記

田んぼの畔に彼岸花が咲き乱れた。気が付けば空も大気も光も・・・秋模様。じっくりと味わいたい。

(S・I)

■学院だより

「定住外国人向け日本語・就業力スキルアップコース」(兵庫県委託訓練事業)の入校式が9月16日に行われた。今年度は7カ国から10人の訓練生を迎えた。コースは12月15日までの3カ月に渡り実施する。日本語をはじめ、職場見学、日本文化を体験する「日本事情」、実際に職業に就いている人に話を聞く「職業人講話」をカリキュラムに取り入れている。神戸YWCAのスタッフにも講師として協力してもらおう予定である。訓練生全員が希望する職に就けるよう、サポートしていきたい。

(学院長・西本玲子)

■まごの手だより

「居宅介護支援」は、中央区・灘区で要介護1以上の方のケアマネジメントを実施。利用者は増加傾向だが、まだ少し余裕がある。

「訪問介護」は、8月に「感染症予防」をテーマに、具体的なスキルと利用者の同居家族が感染したときの対応事例

を学んだ。9月には、「自立支援について」をテーマに研修を実施。参加者9人。9月末日で小野美津江がサービス提供責任者を退任、今後は登録ヘルパーとして活動する。これまでの動きに感謝。

「居住支援」は、7～8月に4人から相談を受けた。7月以降は住宅確保1人、支援継続4人。8月12日、居住支援法人「ノーヴォ・テンポ株式会社」代表取締役の松浦亮輔さんを迎え、研修会を実施。参加者7人。(所長・寺内真子)

■運営委員会報告

8月13日、第6回運営委員会開催(ハイブリッド)、出席6人。【報告】●日本YWCA●会員活動【議事】●神戸YWCAのミッションの明文化●他市YWCAの会費制度の共有

9月10日、第7回運営委員会開催(ハイブリッド)、出席5人。【報告】●理事会●日本YWCA●会員活動【議事】●日本YWCA運営委員選挙の

代議員選出●日本YWCA主催会員研修の参加者選出●映画『夜明け前のうた』上映会後援●神戸YWCAのミッションの明文化●進捗報告会の企画
(書記・福田百)

■理事会報告

8月27日(土)、第4回理事会。出席理事7人、監事2人。2022年度補正予算を確認、2023年度以降の財政構造立て直しに向けて具体的方針について協議した。

9月24日(土)、第5回

世界YMCA・YWCA 合同祈禱週

11月13日(日)～19日(土)

テーマ「Ignite(仮訳:火をつける)」

神戸YMCA/YWCA 合同礼拝

11月15日(火) 9:00～10:00

会場:神戸YWCA5階チャペル

奨励 ネヴダル・クリストファーさん

(西宮南福音ルーテル教会協力宣教師)

ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、担い手となって働きませんか。

◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～
パート 時給1,100～1,200円
登録型 時給1,000～1,400円

*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA
まごの手

☎078-231-3156



シャマイム

担当者 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)



0120-41-1059 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

西宮市段上町2丁目13-2

URL: <http://sanosousai.com>